

みんなあでつながる！ひろげる！地域のチカラ

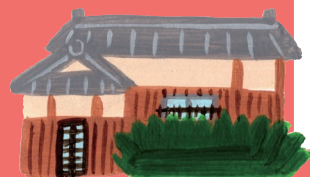
# プラットふくし

こ う ち

高知県社会福祉協議会広報誌



## 家をめ諸



## 問ぐ



## 題るを



### contents

特集 家をめぐる諸問題 ————— 2

ボランティア・NPO 情報 てをつなGO！ ————— 6

魅力的で活気のある地域を目指して

シニアのちょっとした話 ————— 8

手結わくわくものづくり隊 | 四万川宅老

プラットこうち人 岡田泰尚さん ————— 10

高知県社協からのお知らせ ————— 11

市町村社会福祉協議会ご紹介 ————— 12

しまんと町社会福祉協議会

2024  
12月号

vol.11

家を借りることができない。

# 契約更新を

断られる。

家

# 家

質の支払いを忘れたり物忘れが激しくなったり、いつのまにか部屋をゴミでいっぱいにしてしまったりする「認知症」。

認知症の症状自体はゆっくりと進んでいきますが、こうした症状を見て大家さんや不動産屋さんから今後の不安を抱かれ、家の契約更新を断られてしまうケースがあります。また、認知症ではありませんが、本人の周辺に頼れる家族や親族がいなために保証人を確保できず、家の契約更新を断られてしまうというケースもみられます。

**認** 知症の疑いがある場合に、ご本人

が介護認定を受けてい  
ればホームヘルパーの利  
用が考えられるほか、  
民間業者や団体でもサ

ポートを受けられます。

また保証人の確保にあたっては、民間業者による身元保証サービスなどありますが、全国的にトラブルも多くみられるため、依頼時には契約内容の見極めが特に重要です。

家めぐる諸問題を

「住まいⅡ家」は、誰にとっても生活の基本です。

しかし、**地域の中には、**

この「家」に関して深刻な課題を抱える方がいます。

今回のプラットフォームでは

「家をめぐる諸問題」の中から6つの課題を取り上げ、

相談窓口と支援内容を紹介します。

1

たとえば：

# 住み慣れた家で、

これからも

暮らしたい。

**仲**の良いご近所さんもある住み慣れた家には、できればずっと住み続けていきたいもの。しかし、年を重ねるとともに、それまでは平気だった二階への上り下りが大変になってきたり、階段や廊下の小さな段差につまずくことが増えたり、お風呂に入るのにも苦勞をしたりするようになってきます。

こうしたことをひとつひとつクリアしていくために、「住まいのバリアフリー化」に取り組む方が増えています。

**要** 介護の高齢者や障がいのある方がお住まいの住宅では、住宅改修費用の一部を助成する**住宅改修支援事業**などがあります。

また、住宅改修をするほどではなかったり、賃貸住宅のため改修が行えないなどの場合には、たとえば移動用リフトや入浴補助用具、特殊便器といった、日常生活を容易にするための生活用具の給付や貸出を行う**日常生活用具給付事業**があります。これらの支援制度については、まずはお住まいの市町村役場までご相談ください。

**高知県立ふくし交流プラザの福祉用具展示コーナー**では、こうした事業申請にあたり参考になる手すりや電動昇降機などの福祉用具を展示しています。利用方法や生活環境の整備などのご相談もお伺いしていますので、お気軽にご相談ください。

▶お住まいの市町村役場  
▶高知県社会福祉協議会  
いきいきライフ推進課  
☎088・844・9271



**仕事** 事や病気などのトラブル、DVや生活困窮、矯正施設退所後などのために家庭や地域で居場所を見いだせなくなり、いつしかその日暮らしを送るホームレスになってしまうケースもあります。

定住地がないと郵便物の受取ができないため就職先が限定される可能性があります。また、住民票がないと健康保険はもちろんのこと、障がいや介護に関する行政サービスが利用できなくなるほか、生活保護の申請もスムーズに進まなくなります。コロナ禍においては、ワクチン接種や定額給付金などを受けられないというケースもありました。

いったん定住地を失ってしまうと、セーフティネットの網からも漏れてしまい、さらなる困窮へと追い詰められてしまう可能性があります。

### 相談窓口 支援内容

**高知** 県におけるホームレス支援と貧困問題を考えることを目的とする支援団体である特定非営利活動法人こうちネットホップでは、月1～2回

程度ホームレスの方々への夜回りを行っているほか、ホームレスの方々が一時的避難的に定住できる**宿泊施設「ステップハウス」**を運営しています。

宿泊場所が確保できることで生活保護の申請などが可能となるほか、物件探しや就職活動を行う時間を確保できるなど、生活基盤を改めて整えるための準備を行えるようになります。また、DV被害者の一時避難先としての機能も期待できます。

### 連絡は こちら

- ▶こうちネットホップ「ステップハウス」  
☎090・7144・4394
- ▶高知市生活支援相談センター  
一時生活支援事業  
☎088・856・5529



高知市にある「ステップハウス」のようす。一泊1000円が原則だが、個々人の事情により減免なども。

## 家がなくなつた。居場所がなくなつた。

たとえば：

### CASE 4

### 連絡は こちら

- ▼お住まいの市町村の地域包括支援センター
- ▼高知県社会福祉協議会 高齢者総合相談  
☎088・875・0110

制度についての相談は、お住まいの**市町村の地域包括支援センター**や高齢者などの権利擁護支援が必要な方の総合相談窓口（権利擁護支援の**中核機関**等）へご相談ください。また、**高知県社会福祉協議会の高齢者相談窓口**では、相談内容を受けて最適な相談窓口におつなぎします。

### 相談窓口 支援内容

備えの方法には、①相続等の意思を予め遺す遺言、②相続の手続きを生前のうちに定め、死後の事務を第三者に予め委任する死後事務委任契約、③判断能力の低下に備え任意の後見人を決めておく任意後見制度などがあります。

## 老

人福祉施設に入ることになったり、病気で長いこと入院することになったり、はたまた判断能力が低下したり……。どなたにもいつの日か、「自分の家」に住めなくなる時はやってきます。大切な家族のためにも、元気なうちに相続に関する取り決めを定めておくことは重要です。

## 家や財産を 相続したい。

たとえば：

### CASE 5

## 家賃が支払えない。

たとえば：

## 離

婚をしたが小さな子どもと二人でアパート暮らし。子育てしながらできる仕事は少なく、児童扶養手当の支給を受けてはいるものの貯金を切り崩しながら暮らしているような状況で、家賃の支払いにも事欠く状況—

こうした「生活課題」を抱えている方の中には、日々の暮らしを送ることが精一杯で、行政で用意している福祉支援のためのさまざまな制度を知らない方も多く見受けられます。

### 相談窓口 支援内容

**各** 市町村にある**自立相談支援機関**では、暮らしや住まい、仕事のことなどさまざまな課題を整理し、解決に向けてのサポートを受けることができます。

機関ごとに①就労に向けた各種訓練や職業あっせんや②家計の立て直しのための支援、③子ども向けの無料学習教室や居場所提供などの支援メニューがあり、支援員が一緒になって必要な支援プログラムを考えていきます。家賃の一部を給付する**住宅確保給付金**を申請できる場合もあります。

児童扶養手当を受給中で、なおかつ「ひとり親家庭支援センター」で面談のうえ「母子・父子自立支援プログラム」の策定を受けている方であれば、家賃の一部を貸し付ける**住宅支援資金**を申請できる場合もあります。

### 連絡は こちら

- ▶お住まいの市町村の自立相談支援機関
- ▶高知県社会福祉協議会 福祉資金課 ☎088・844・4600

## 最後に

地域で生活していくうえで「家をめぐる諸問題」は、誰にとっても「我が事」になる可能性があります。

自分だけで解決できない課題も、関係する相談窓口や関係機関と繋がることにより、解決のヒントが見つかることがあります。困っている人を目の前にしたとき、ご紹介した相談窓口や関係機関を思い出してみてください。



(上)海ギャラテラスで行われたトークイベント

(左)建築の魅力再発見ツアー

(左下)海のギャラリー

(右下)法人臨時総会意見交換の様子



海の  
ギャラリー  
公式ページ



海の  
ギャラリー  
公式instagram

一般社団法人

一般社団法人  
**海ギアラ CHILL OUT**

土佐清水市竜串23-8(0880・85・0137)

「海のギャラリー」は、日本の女性建築家のパイオニアとして活躍した林雅子氏が1966年に設計し、建てられた。青い海と緑の山々が広がる竜串湾のほとりにあり、折り重なるような白い屋根が特徴的な建物の中に入ると、そこはまるで海の底のような雰囲気。館内には貝殻コレクションで知られた黒原和男氏が集めたという美しい貝殻が無数に展示されています。



竜串にある名建築

「ゆったり、まったり、いい時間」。  
2019年に、その建築的価値などが  
認められて国の登録有形文化財となっ  
た土佐清水市の市立竜串貝類展示館  
「海のギャラリ」（以下、海ギャラ）は、  
2024年4月より『一般社団法人海  
ギャラCHILL OUT』が地域資源  
の魅力を掘り起こし、地域の活性化に繋  
ぐための活動を行うために、指定管理者  
として運営しています。

閉館の危機を乗り越えて

約20年前には、建物の老朽化や来館者の減少もあり、閉館と取り壊しの危機に直面しました。その時に立ち上がったのが、「海ギアラを残したい!」という強い気持ちを持った〈海ギアラを愛する人たち〉と〈地元の人たち〉でした。

「地域の人の理解あってこそ、動ける人たちがいる」と熱く語るのは、代表理事を務める黒井博美さん。運営に関わる寄付を集めた後、東京で行っていた林雅子さんの展覧会を土佐清水市役所でも行うなど、

魅力あふれる地域  
の自慢に

この場所です。50年以上にわたり愛され続けてきた「海のギャラリ」をこれからも残していくために、また「海のギャラリ」の魅力をより多くの人に知ってもらうために、建築ガイドやトークイベント、マルシェなどといったさまざまな活動を地域の人たちや他団体の方々と一緒になって行っています。

「海のギャラリ」が、ここにしかない、地域の自慢になるような場所になってほしいです」と黒井さん。より一人でも多くの人すね」と黒井さん。より一人でも多くの人

に、この場所です。ゆつたりまったりと過ごして

もらえるように、さ

らなる取り組みを

今後も行っていく

とのことです。



魅力的で  
活気のある  
地域を  
目指して

閉館の危機を乗り越え  
約20年前には、建物の老  
減少もあり、閉館と取り壊  
しました。その時に立ち上  
ギヤラを残したいー」とい



コロナ禍の本格的な収束の流れもあり、高知県内でも地域活性化に向けた活動は盛り上がりを取り戻してきています。各地域における活動はさまざまですが、地域の歴史や文化などの地域資源を活かしながら取り組みが展開されています。地域ならではの資源を活用しながら、魅力的な活動を行っている2つの団体を紹介します。



集落活動センター  
高知市春野町仁ノ384-2(088・823・8813)

高知市春野町仁ノ384-2(088・823・8813)

## 仁ノ地区の現状から

高知市春野町の仁ノ地区は仁淀川の河口部に位置しており、周囲を山や川、海に囲まれた5つの集落で構成される自然豊かな地域です。地区では仁ノ八幡宮夏秋活動が積極的に行われているほか、住民主体の防災活動が活発に行われてきました。一方で少子高齢化や人口減少も年々市の中でも高齢化率が50%以上と高知となっています。

このような現状の中で、

## 仁ノ地区の現状から

《集落活動センター仁ノ万葉の里》（以下、仁ノ万葉の里）は、2022年5月に県で65カ所目、高知市で3カ所目となる集落活動センターとして開所されました。少子高齢化や人口減少による地域の担い手不足や生活サービス不足などの課題に対応するため、地域の歴史や文化を活かした取組を通じて、仁ノ地区の地域活性化に貢献しています。



課題として挙がっている地域の抱い手不足や生活サービスの不足、耕作放棄地対策などに對して、春野公民館仁ノ分館を拠点に集いの場づくりや伝統文化の継承、新規就農者の受入などに取り組もうと、2022年5月に「集落活動センター仁ノ万葉の里運営委員会」が立ち上がりました。

部会活動を積極的に

フェデ部会」、「特産部会」、「支え合い部会」、  
「体験部会」、「伝統文化継承部会」の6つ  
の部会が設置されており、地域の伝統・文  
化を守りながら集いの場づくりやイベント  
の開催、特産品づくりなど地域の活性化に  
取り組んでいます。

たとえば、土曜市部会では年に3〜4回程度の頻度で農産物やちらし寿司、地域の伝統的料理『とらまき』の販売などを行っており、地域内に食料品店が少ないこともあって多くの地域主産品が、

棄地への対策として農作物の生産に取り組んでいて、水はけの良い砂地を利用した『島らっきょう』や『サツマイモ』を栽培。ひろめ市場の店舗に卸したり、直売所での販売を行っています。

元を行っています

このため、地区のため

どの活動を通じて、地区外からの来訪人口も増加させて関心人口を増やすことを目指しています。それに加えて、地区住民にも改めて地区の魅力を感じたり、発信できるきっかけをつくり、地域の活力を目覚めさせる発信源となるような拠点づくりを行っていきたいとのことでした。

さまざまな形でギャラリの保存・再生のための取り組みを行いました。こうした「海ギヤラが好き！」を原動力とし集まった人たちの情熱がひとつとなつて存続が決まり、2005年には一部リニールしてオープンすることになったのです。



(右上)カフェ部会の食事

(左上) 仁ノ万葉の里名物島らっきょう

(右)たくさんのお客さんで賑わう土曜市





# つながる、ひろがる、セカンドライフ。シニア世代の生きがい・健康づくり。

## シニアのちよっといい話 vol.11

シニア世代の皆さんが生きがいのあるセカンドライフを送るための参考となるような、県内でいきいきと地域活動をされている皆さんをご紹介します。

# 手結わくわくものづくり隊

香南市

ものづくりを通じた地域活動の活性化を目指す

## 互いに高めあい、創作活動をもっと楽しむ

毎月1回、香南市夜須町にある手結会館で手芸教室を開催しているのが「手結わくわくものづくり隊」。活動時間が近づくとメンバーが三々五々会館に集まりはじめ、あちこちでおしゃべりが盛り上がるようになります。

取材に伺った10月6日(日)はハロウィングッズづくりの日。まずみんなで手指の体操で準備体操をした後、最初に代表を務める佐川舞さんからこの日の創作内容や素材として使うひょうたんの説明があり、次いで夫の忠さんが用意してくれた小さなひょうたんを使っの創作活動がはじまります。

ひとつひとつ形が異なるひょうたんをメンバー各々が手に取り、さまざまな角度から眺めながら作品のイメージを固めていき、自由に作品をつくりあげていきます。

作品の形がおおむねできあがると、メンバー同士で「この色合い、とってもいいねえ」「この貝殻の帽子、似合っちゃうやか」とお互いの作品を褒め合う時間。他のメンバーの作品を見ることでさらに新しい構想が湧きだし、すぐに次の作品づくりに没頭していきます。



左から おしゃべりも交えながら制作に没頭／代表の佐川さんの手ほどきをうけながら



## 活動継続に向けた世代交代

ものづくり隊の発起人である小松康雄さんに話を伺うと、「手結も高齢化が進み、催しがずいふんと減った。このままじゃいけないと思い、地域での活動を広げたいと考えていた。そんな時、県外から移住してきた佐川さんご夫妻が拾ってきた貝や流木などで、楽しそうに工作していたのを見て、この活動を提案。それから、さまざまなことに積極的に取り組むご夫妻と活動を共にする中で、手結の地域活動のリーダーになってくれると見込み、手芸教室代表の引継ぎをお願いしたそうです。無事に引継ぎを果たした小松さんは、現在では一メンバー、そして相談役として手芸教室に参加しています。

佐川さんご夫妻にお話を伺うと、「小松さんからお願いをされた時は、正直心配や不安もありましたが、地域活性化を願う思いに共感し、お引き受けしました。小松さんが活動を支えてくださるので心強いです。地域の活性化に向け、これからも一緒に活動していきたいと思っています」とのこと。

## メンバーも募集中!

今年もリースやクリスマスツリー飾り、正月飾りづくりを予定しているそう。2025年以降も季節の移ろいを感じられる内容の手芸教室を開催していくことで、もし興味があればものづくり隊までお気軽にお問い合わせを! 皆様の参加をお待ちしています♪  
電話 090-8693-8710(佐川)



# 四万川宅老

梶原町

食べて、笑って、共に過ごす憩いの場

## 月2回、昼食を囲みながら

デイサービスに行けない方や独居高齢者の方々が自由に集える場所をつくりたい!という想いから、平成24(2012)年に梶原町役場の支援を受けながら結成されたのが「四万川宅老」だ。

四万川交流センターを拠点に活動しており、10名の地域ボランティアと8名の利用者メンバーがおり、現在のメンバー最高齢は95歳、平均年齢は85歳だそう。

活動日は月に2日あり、10時から14時まで皆で楽しくレクリエーションをしたり、体操をしたりしている。地域ボランティアの方々がメンバーに楽しんでもらえるように企画づくりをしている。取材にお邪魔した日は歌を歌いながら手足を動かしたり、ペットボトルを竿で釣って立てる遊びをしていて、皆とても楽しそうであった。

みんなで一緒に食べるお昼ごはんは、ボランティアの方々が用意した、地元の野菜をふんだんに使った栄養満点のおいしい料理。世間話をしたり、昔話をみんなで懐かしみながらしたり、常に和気あいあいとした雰囲気、で話が弾む。ふだんは一人暮らしをしているメンバーのひとりとは「みんなで食卓を囲むこの時間がとても良いのよ」と話してくれた。

## 地域住民の体調や近況も把握

誰かメンバーのひとりが来ないと体調を気にかける関係性もできており、活動を通じて地域のつながりも深まっている。近隣に暮らす住民の体調や近況などについても情報交換することもあり、困っていたり支援が必要そうな方に対してのサポートも早い段階からできるようになってきた。

もともと保健師や保育士などの仕事に就いていた方や民生委員が四万川宅老の活動には深く関わっており、レクリエーションや昼食の献立などを考えるときも各方面からアドバイスがもらえるようになっている。地域ボランティアの方々からは、「ここは活動しやすい環境が整っちゃう」という声が聞こえてくる。

また、ここではメンバーそれぞれがキラキラとした笑顔で本当に楽しそうな時間を過ごしていて、月2回の宅老の活動を「いつも待ちかねちゃう」「参加することで前向きになれる」と異口同音に語る。

地域ボランティア内には次世代の後継者もあり、活動が円滑に継続できるように今後も積極的に活動をしていく予定だとか。ボランティアメンバーの数も増やしていきたいながら、地域住民同士がよりお互いを気に掛け合えるきっかけづくりをしていきたいという。

左から メンバー集合写真／昼食の準備は作業分担して手際よく進めていく／昼食には季節の食材を使った色とりどりの小鉢が並ぶ





幼少期は、コースのラインを無視してショートカットしても最下位になつてしまふほど足が遅かったそうだが、小学校6年生の運動会ではリレーの選手に選ばれ、その冬の駅伝大会ではアンカーとして走り1位でゴール。この時の経験があまりに楽しくて、中学校でも陸上をやることを決めたという。

中学生では四種競技を中心に始め、3年生で出場した四国総体での400mでは自己ベストを記録。秋には栃木県で行われた全国障害者スポーツ大会に出場。初めての全国大会では「緊張するより楽しんだもの勝ち」を実践。高知県選手団で唯一中学生として出場した200mと走高跳びで銀メダルを獲得。この大会のコーチが、日本デフ陸上競技協会につないでくれ、デフ日本代表の道につなげた。

ブラジルで、台湾でメダル獲得

高校入学後、デフ強化選手に指定され、日本選手権に出場したほか、日本デフ選手権の400mと400mHでは金メダルと銀メダルを獲得。ブラジル大会代表にも選拔され、片道30時間をかけてブラジルへ向かった。「世界大会でも、せつかく日本の反対側に来たんだから楽しもう!という感じで走った」結果、1000mは7位入賞、2000mと4000mで銀メダルを獲得した。



土佐清水市から世界へ挑戦する次世代アスリート!!

中村高等学校2年生

岡田泰尚さん (17)

幼少期に両耳感音性難聴により人工内耳を装着した中村高校2年生の岡田泰尚さん。台湾で行われた「デフ陸上」第1回世界ユース(U20)選手権大会では4×100mリレーで世界新記録で金メダルを、4×400mリレーでも金メダルを獲得した。2025年11月には東京で「きこえない、きこえにくい人のためのオリンピック」である夏季デフリンピック競技大会が開催されるが、この大会に向け、これまでの取り組みや目標を聞いた。

陸上との出会い

幼少期は、コースのラインを無視してショートカットしても最下位になつてしまふほど足が遅かったそうだが、小学校6年生の運動会ではリレーの選手に選ばれ、その冬の駅伝大会ではアンカーとして走り1位でゴール。この時の経験があまりに楽しくて、中学校でも陸上をやることを決めたという。

中学生では四種競技を中心に始め、3年生で出場した四国総体での400mでは自己ベストを記録。秋には栃木県で行われた全国障害者スポーツ大会に出場。初めての全国大会では「緊張するより楽しんだもの勝ち」を実践。高知県選手団で唯一中学生として出場した200mと走高跳びで銀メダルを獲得。この大会のコーチが、日本デフ陸上競技協会につないでくれ、デフ日本代表の道につなげた。

ブラジルで、台湾でメダル獲得

高校入学後、デフ強化選手に指定され、日本選手権に出場したほか、日本デフ選手権の400mと400mHでは金メダルと銀メダルを獲得。ブラジル大会代表にも選拔され、片道30時間をかけてブラジルへ向かった。「世界大会でも、せつかく日本の反対側に来たんだから楽しもう!という感じで走った」結果、1000mは7位入賞、2000mと4000mで銀メダルを獲得した。

その後の7月には台湾で初めてリレー種目に挑戦。健常者の大会であれば掛け声でバトンパスを行うが、デフでは人工内耳や補聴器を外さなければならぬため、バトンパスはまさに「感覚」で手を出してつないでいく。スタッフに振つてもらった動画で歩幅や距離感を把握し、バトンをつなぐタイミングを微調整しながら本番を迎えた。

岡田選手は2走。アウトレーンのアメリカが速かったたのでこれに付いてく作戦に切り替え、3走へバトンパス。そこから3走がトップをとるとそのまま4走へつなぎ、1着でゴールイン。「電光掲示板を見ると《WJR》という文字が出ていて、なんだろう?と思ういたら、世界記録の更新タイムでした」。

また、オリンピックやパラリンピックに比べデフはまだあまり知られていないことから、デフの普及活動を進めたいそう。高知県でもデフ用スタター(音ではなく光でスタートを知らせる装置)の導入が準備されており、「競技だけではなくイベントなどでもデフを知ってもらえたら」と語る。

岡田選手が世界につながったのは、小学校の時に幡多地区でチャレンジ記録会に出場していたところから始まっている。そこから県障害者スポーツ大会に出て、全国障害者スポーツ大会につながって世界につながった。

「まずは何でもいからチャレンジする。これに尽きると思う。別に失敗しても誰も責めないし、自分が楽しんでできたらそれが一番なので、まずは挑戦」と岡田選手。

障害のある子どもたちがさまざまなことに挑戦をしていこうとしているとき、周囲の人たちはどのようにふるまったら良いかと聞くと、「子ども自身ができることに助け舟を出すのではなく

今後の目標は「次世代のデフを支える選手として活躍したい。国内外の大会で経験を積んで、技術的にもメンタル的にも強くなりたいですね。東京大会には、もし出られなくても、ボランティアでも関わりたいです。」とのこと。

これからの目標

岡田選手は、デフ日本代表選手の中で一番年下の17歳。とんとん拍子に世界にいかたと、運の引き寄せ方やめぐりあわせがいいと思うのと、と。父哲治さんも、「こそぞという時に助けてくれる人が出てくるんですよ。何か大きな場面に立つと、必ずキーになる人が手を差し伸べてくれる」と語る。

## プラット こうちふ

VOL.11



デフ陸上第1回世界ユース(U20) 世界新記録 2024年7月

## 高知県社協からのお知らせ



### 第53回 高知県オールドパワー文化展開催!

県民の多くの方に芸術や文化に親しんでいただくことを目的に毎年開催しています。例年、力作、大作が多数出品されますので、皆様もぜひご来場ください。なお、詳細は、(株)高知新聞企業ホームページをご覧ください。

[出品対象者] 高知県内在住の60歳以上の方(共同制作可)

[開催日] 令和7年3月13日(木)～18日(火)9:00～17:00 (ただし、初日13日は10:00～17:00、最終日18日は9:00～15:00)

[会場] 高知県立美術館 高知市高須353-2

### 令和7年度 高知県福祉活動支援基金事業の募集が始まりました!

地域共生社会の実現に向けた地域での福祉活動を推進する事業に助成します。

[募集期間] 令和6年11月1日(金)～12月20日(金)

[助成対象団体等] ○任意の福祉団体、公益法人、NPO法人など ○高齢者、障害児(者)、児童関係の福祉施設など

[助成上限額] 150,000円～500,000円

[問合せ先] 高知県社会福祉協議会 地域・生活支援課 TEL:088-844-9019

### 令和6年度 第2回ふくし就職フェアを2月に開催!!

県内の福祉事業所が一堂に介して、就職・転職希望者等、との福祉の仕事に関する相談会を、対面とWEBのハイブリッド形式で開催します。

[開催日] 対面: 令和7年2月16日(日) WEB: 2月20日(木)～22日(土)

[場所] 高知市文化プラザかるぽーと 高知市九反田2-1

[問合せ先] 高知県福祉人材センター TEL:088-844-3511 E-mail: jinzai@pippikochi.or.jp



## 福祉のお仕事 トータルサポート!

お仕事を探している人!!

- ▶ 豊富なノウハウと幅広いネットワークをもとに専門家が、ご希望を伺いながら施設の見学・面接の日程調整など、お仕事探しをサポートします。
- ▶ 福祉のお仕事が不安な方や、ブランクがある方でも大丈夫! 職場体験に参加することで実際の働き方がイメージできます。

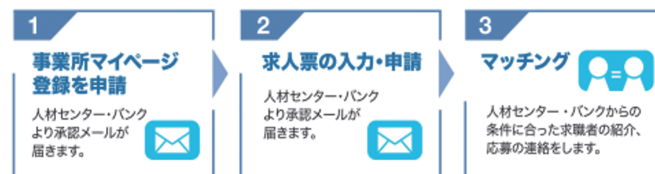


最新イベント情報も配信中!



求人を出したい事業所!!

- ▶ 24時間求人の申請ができます!
- ▶ 一度求人を出したら、次回からは「再利用新規」でラクラク申請!
- ▶ 事業所詳細情報を使って事業所の特色や写真を掲載してPR!



操作方法や詳細についてのお問い合わせは下記まで

### 高知県福祉人材センター

〒780-8567 高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ1階 ☎088-844-3511



### 安芸福祉人材バンク

〒784-0043 安芸市川北甲5685 ☎0887-35-2915

### 幡多福祉人材バンク

〒787-0012 四万十市右山五月町8-3 四万十市社会福祉センター内 ☎0880-35-5514





高知県内の市町村  
社会福祉協議会ご紹介⑩

# みんなで集い、 地域を支え、手をつなぐ 安心のまちづくりに向けて

## しまんと町社会福祉協議会

海・山・川と豊かな環境に恵まれ、県内最大面積を誇る四万十町は、平成18年、窪川町、大正町、十和村の2町1村が合併して誕生しました。地域活動を支える「住民主体」のまちづくりに向けた「しまんと町社会福祉協議会」の取り組みをご紹介します。

### 「地域力」の低下

四万十町では、現在およそ15,000人が暮らしており、高齢化率は45%を超えています。少子高齢化や人口減少により、これまで取り組まれてきた地域活動を担う人材の確保やその育成が難しく、活動の継続が困難となる地区も増加してきました。

地域活動が継続できなくなるとは人の集う機会がなくなることであり、地域の活気や伝統が失われること、人と人とのつながりを希薄化させることにもなりかねません。様々な困りごとや悩みを抱えた世帯が増加するなか、住み慣れた地域で安心して暮らす続けるために、日頃から「支え、支えられる関係性」でいられることが大切なのです。

### 第3期地域福祉活動計画始動

四万十町では、令和5年度から9年度の方針を定めた「第3期地域福祉活動計画」(※1)がスタートし、地域福祉をみんなで進めることができる社会の実現を目指しています。

この計画策定から実際の活動に至るまで取り組んでいるのが、地域の代表が意見交換や取組内容の検討を行っている地域福祉活動計画推進委員会です。

委員会には小班もあり、計画にある重点目標の

ひとつである「みんなの集える場所づくり」に取り組む「すまいるチーム」では、運動と食を融合した健康づくりとして、スポーツレクリエーション体験会を開催してきました。具体的には、チェアヨガやボッチャ、ノルディックウォークなどで体を温めたのち、みんなで食事を楽しんでいます。

体験会への参加者たちは、各々が出来る範囲の運動にチャレンジし、談笑しながら食事をとり、お互いの近況報告や情報共有の場としても活用しているようです。元々は窪川で始まったこの取り組みですが、他地区へも展開するため、社会福祉協議会も一緒になって働きかけを行っています。

### 住民主体のまちづくり

令和6年9月に開催された委員会では、住民主体のまちづくりに向けて、新たな取り組みを提案する声も聞かれました。アイデアが出されたのは、重点目標③「手をつなごう 安心のまちづくり」について話し合っていた班で、その内容は「四万十町にも福祉委員制度(※2)を導入したい!」というものでした。

きっかけは、限られた人数で地域内の見守り等を行っている民生委員の活動について負担を心配する声があがったことでした。「自分たちが暮らす地域のなかで、ちょっとした目配りや心配りをして



地域の先輩に教わりながら餅づくり

くれる人がもっと増えてほしい」、「みんなが安心して暮らすために何が出来るのか」との話になり、我がまちの取り組みを検討するためにも、まずは学ぶことから始めようということになりました。

今年度中には先進地の視察を予定しており、今後はこうした動きを多くの人に知ってもらい、興味を持ってもらうことから始めていくことが目標です。

### 「地域は家族～笑顔で暮らせる四万十町～」の実現に向けて

四万十町では、行政や社協、住民、その他の団体等がともに課題解決や地域づくりを行う体制づくりを目指しています。「社協として、もっと地域に出向き、情報を拾い上げ、つながりを強めていく必要がある」と事務局長の尾崎さん。コロナ禍には、計画していた行事が中止となり、せっかくの取り組みが停滞してしまったこともあり。広い町内をきめ細かにカバーするためには努力が必要ですが、地域福祉を推進する組織として、住民から顔の見える・すぐに頼ってもらえる存在でありたいとの思いから、広報誌のリニューアルや集いの場を増やす取り組みなどを行っています。

また、町内の社会福祉法人や株式会社との情報交換会の方も再始動させ、改めて地域に必要なことが何か、できることは何か、見つめ直しています。今後、更にパワーアップするしまんと町社協や地域福祉活動計画の取り組みについて、皆さんも是非チェックしてみてください。

※1 地域福祉の推進を目的として、地域住民や民間団体などが相互協力して策定する民間活動の行動計画。

※2 名称は自治体により様々。普段の暮らしの中で、地域の気になることや困りごとを民生委員につなぐ役割などが期待される。

## 社会福祉法人 高知県社会福祉協議会

高知市朝倉戊375-1 県立ふくし交流プラザ内  
TEL.088-844-9007 / FAX.088-844-3852  
E-mail plaza@pippikochi.or.jp

<https://www.kochiken-shakyo.or.jp/>

### ふくし交流プラザへの交通のご案内

【お車でお越しの方】高知駅より車で約20分、高知 IC より車で約30分、伊野 IC より車で約15分、高知龍馬空港より車で約50分。  
駐車場：普通乗用車で約180台駐車できます  
【公共交通機関でお越しの方】最寄りバス停「朝倉第二小学校前」下車すぐ



## QUOカードが当たる！ 読者アンケートに ご協力ください！

「プラットふくし」をより良い紙面としていくために、みなさまからのご意見をお待ちしております。ご回答いただいた内容は、今後の企画等の参考とさせていただきますので、右記QRコードより2025年2月28日までにご回答ください。ご協力いただいた方の中から抽選で3名の方にクオカード500円分をプレゼントいたします。当選者の発表は商品の発送をもってかえさせていただきます。



アンケートは  
こちらから！

